

## 令和6年度第3回向日市男女共同参画審議会 議事要点録

○日 時 令和7年3月28日（金）午後1時30分から午後3時30分まで

○場 所 女性活躍センター 大会議室

○出席者

（委員）

大束委員、岩野委員、松田委員、松野委員、岡田委員、森田委員

（事務局・説明員等）

ふるさと創生推進部長 野田、副部長 松石、広聴協働課長 白波瀬、  
係長 松本、主任 山崎

○その他出席者 傍聴者なし

○会議概要

議事内容

（1）アンケート（市民・事業所意識調査）の集計結果について

向日市男女共同参画に関するアンケートの集計結果について事務局から説明を行った。

（2）令和6年度 男女共同参画推進事業 報告について

令和6年度向日市男女共同参画推進事業報告の1、第3次向日市男女共同参画プランの推進、男女共同参画に関する調査について事務局から説明を行った。

（3）令和7年度 男女共同参画推進事業 概要について

令和7年度向日市男女共同参画推進事業の概要について事務局から説明を行った。

### 【意見の要旨】

—議事内容（1）について—

委 員： 初めてのWebアンケートの実施について、封筒にWebでできるということが記載されていなかった。若い方からの回収率向上には、QRコードを表紙に出しておくなどした方が良かった。

事 務 局： 5年後に実施する際には改善したい。

委 員： 私のところには男女共同参画の事業所用と市民用の両方が届いたが、内容も半分重複していた。回答するのに約20分は長い。途中で前の質問に戻ろうとしたら最初の質問にまで戻ってしまった。質問の量は少ない方がいい。サンプルの年齢がほぼ50歳以上。企業向けアンケートもそう。市

民と事業所と状況が違うので、それを同じ時期に行うのはいかなものか。

事務局： 双方をまとめて業務委託しているため、異なる時期に行うのは難しい。質問数については、今後、審議会においてご意見をいただきたい。

委員： Web 回答について、中断したら続きから始められるような仕組みにしてほしいという件は。

事務局： 中断できるようにしているが、一時保存できる期間が決まっている。

委員： 仕様については、また議論の余地があるので改善に期待する。

委員： 事業者アンケートは、向日市商工会の会員企業及び向日市商工会に加入する事業所全数か。

事務局： 総代 120 社である。

委員： 総代は商工会のメンバーの中から役員として出ているため、意識が高いと思われる。

委員： このアンケートを行ったことによって、男女共同参画の考えが必要とされているんだということに対し、事業所の方が意識を持っていたらそれはそれでいいと思う。

委員： 28 ページの性別役割分担意識について、主語がないのでこの文章を書き改めていただきたい。

委員： 以前は女性が選んでいたキッチンも、最近は男性がキッチンを選ぶことが増えてきた。そういう場面で男女共同参画が進んできたように感じる。女性の外見について触れることなどはハラスメントということで「言うてはダメなこと」として自分自身に吹き込んでいるが、若い世代はそうではない。アンケート結果が 40 歳以上と 40 歳未満で区別できれば、今後の方向性が見えてくるかもしれない。

委員： 可能であるなら、今回はもう少し質問数を減らした方がよい。

委員： 家族経営の会社とそうでない会社では組織や業務の形態が異なるので、それを一律に調査しても、その結果がどうであったかと言われても何とも言えない。身内が多い。

事務局： 40 歳未満と以上で分けて結果を見るということ、また事業所アンケートの従業員数については、次回アンケートの際、審議会の皆様と検討していく。

委員： 40 歳以下の母集団を作って集計することは出来ると思う。資料として持っていた方が、今後の施策を検討するのにあたり、若い人の案が役立つと思われる。

委員： 例えば、全体を3分割ぐらいにして、その中でどう意見が違うのかを  
見てみる。そうして見れば、若い人たちに対してはこういう施策を、高齢  
者に対してはこんなことやったらいんだということが、見えてくる。16  
ページのところで、年齢を49歳以下と、50代60代の人たちと、70代以  
上の人の3分割にして、この3つに分けたらどう傾向が違うかというのを  
見てもらおうと、よりはっきりしてくる。20歳未満から90歳以上というよ  
うに細かくなると、細かくなればなるほど、その差がわかりにくくなるの  
で、そういったところも検討していただきたい。

事務局： 今回の報告には掲載できないが、来年度のプランには出来る範囲で反映  
させるよう努めていく。

委員： 40ページのところで「精神的な暴力」「社会的な暴力」「経済的な暴  
力」に肯定的な人、特に男性が多い。そうすると、家庭内の暴力と、性別  
役割分担意識がどう関わっているのかということに対し、43ページにク  
ロス集計の表がある。しかし状況を示す説明の文章がない。また、88ペ  
ージのところ「問19 あなたの家庭ではどなたが分担されていますか」と  
いう質問を、性別役割分担意識とクロス集計させるとか、あるいは男女の  
平等感とクロス集計させるとどうなるんだろうとか。次の96ページ  
の子どもの育て方に関しては、10ページのところに記載の、男性は「女  
の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」と考える傾向があるという  
意識と、性別役割分担意識が、どういうふうに関係しているんだろうとか  
か。おそらく、子育ては男女別にやったらいんだという人は、性別役割  
分担意識においても、男が仕事、女が家事育児だと答えている割合が高い  
んじゃないかと推測される。そのことを確認しておく必要だと思う。その  
推測が違っているのであれば、なぜ性別役割分担意識を持っている人は、  
子育てを男女別にやったらいと考えているのかいないのか。なっていない  
のであれば、じゃあ、この意識っていうのを変える切っ掛けになるは  
ず。だから、そこまでちょっと見ていただければ、このデータ自体とても  
利用価値があると思うので、今言ったものだけでなく、性別役割分担意識  
とか男女平等感というものとクロスしてみたら、どのようなものが見える  
のかということを一度検討願いたい。

事務局： おっしゃっていただいている部分については、できる範囲で努力してい  
く。どういう集計が良いのかアドバイスいただきたい。

委員： もちろん報告書に載せて欲しいということではなく、こういった分析を  
今後やってみたらいいのではということをお願いしたい。ただ、43ペー

ジの表に関しては、ここだけ何か表がポンと載っていて、記載している意味が分からないというような状況になっている。

事務局： 最終報告の時にここにコメントがないままにならないようにする。

一議事内容（2）について一

委員： 資料の4について、50代以上が9割なので年齢層が凄く偏っている。偏りがありすぎてデータとして評価出来るのか。

事務局： 若い方にぜひ来ていただきたいと頑張って周知はしているが、なかなか参加いただけない。

委員： いきいきフォーラムの参加者という、比較的意識の高い方が集まっているにもかかわらず、この回答状況だったということ。理解した。

委員： 「結婚後は夫の姓を名乗るのが自然か」という問いについて、私は同じ姓であるべきだとは思っていない。しかし自然かと問われると、自然と答えてしまう。私の意見を聞きたいのか、一般論で良いのか、明確にした方が良い。

事務局： フォーラムの実行委員と考えて作成している物なので、実行委員会に伝えておく。

委員： マルシェの参加者にもいきいきフォーラムと一緒に参加してもらえないのか。

事務局： 啓発チラシを配ってはいるが、マルシェからいきいきフォーラムに参加する人は少ない。

委員： 女性応援セミナーというような、若い世代が求めているような事業も実施しているので、もう少しミックスできるような仕組みを考えてはどうか。

実行委員会の方で、あすもあマルシェであるとか、この女性応援セミナーに参加されている人に「どういうことを話聞きたいですか。」ということを書いて、内容決めてはどうか。

事務局： ご意見について実行委員にお伝えする。

一議事内容（3）について一

事務局： 令和7年度の新規事業はプランの改定と、生理の貧困対策事業。今まで経済的な理由で入手困難な方に配布していたが、令和7年度からは必要とされる方に使っていただけるよう、トイレにも設置する。

委員： いきいきフォーラムの実行委員はこれから決定されるのか。

事務局： 令和6年度末に募集し、引き続き担っていただく委員に新しい方1名を加えた6名体制。

委員： 来年度の事業計画に関しては、今年度の事業を振り返った結果、継続してやった方がいいという判断になったということか。

事務局： ご質問のとおり。

委員： 今年度は女性団体懇話会がなかったが、令和7年度は実施する予定となっている。

事務局： プランの改定もあるので、女性団体懇話会からも意見を取り入れていきたいと考えている。

委員： 周知にあたり、LINEが有効。ワクチン接種の予約以来、広報誌もスマホで見えるようになった。LINEのお友達数は増えているのか。

事務局： お友達の数にはワクチンの時に登録していただいた方から、毎月増えている。ただし、一定ブロックされている方もいらっしゃると思う。

委員： 父親向けの育児講座について、今年度18人しか参加していなかった。来年度も2月に開催するのであれば、何か啓発活動を工夫するのか。

事務局： 保育施設などの子ども向け施設にチラシを配っていく。

委員： 仕事をされているお父さんお母さんに、土曜の朝10時はちょっときついと思う。

委員： 良いと思わなければ来てくれない。自分も子育て中の時、直接保護者会みたいなところから連絡が回ってきた時には行っていたと思う。

委員： 参加人数の是非は目的によって変わる。当初の目的はこれなので、だから参加者はこれぐらいの人数なのですと設定できていればいい。多くの人に参加して欲しいという目的があったのに人数が少ないということであれば、それは何か問題があったからそうなっているということなので、次の開催のときに、どうするのかということを考えるということによろしいでしょうか。

委員： 今の計画の最終年度として、事業に関しては評価されるはず。その評価があつてどのように次の計画を作っていくのかとなる。今回、あまり評価がないまま、報告があつて、計画があるという形になっているので、「どういう評価をしたので、こういう計画になります」ということを、次回説明いただけると、こちら意見しやすいと思うので、よろしくお願いしたい。